

2016年2月 活動報告

2 月	1	日	消費生活安定対策審議会
	3	日	全国漁業連合協同組合、青年女性交流大会審査会
	4	日	協同組合交流会
	5	日	栃木県農政審議会・第4回生活支援・介護予防体制整備研究会(小山市)
	7	日	公明党新春政策文化懇話会
	8	日	第5回定例くらし部会
	9	日	定例理事会
	11	日	四倉お茶会
	13・14	日	適格消費者団体連絡協議会(埼玉)
	15	日	第4回理事・幹部職員定期学習会
	16	日	下野新聞「下野ふるさと大賞」審査会
	18	日	認定こどもみどり園、食の安全学習会
	22	日	宇都宮市食品安全懇談会
	23	日	食と農を考えるフォーラム・労福協へ、適格消費者団体について説明

【2月の振り返り】

◇機関運営

- 8 日 第5回定例くらし部会
- 9 日 定例理事会

◇行政関係

・懇談会・審議会への参加

- 1 日 消費生活安定対策審議会
- 5 日 栃木県農政審議会
- 22 日 宇都宮市食品安全懇談会

・その他 行政関係

- 5 日 第4回生活支援・介護予防体制整備研究会(小山市)

◇ネットワーク活動

- 18 日 認定こどもみどり園、食の安全学習会

◇県連学習会

- 15 日 第4回理事・幹部職員定期学習会

◇被災地支援

- 11 日 四倉お茶会

◇その他

- 3 日 全国漁業連合協同組合、青年女性交流大会審査会
- 4 日 協同組合交流会
- 7 日 公明党新春政策文化懇話会
- 13・14 日 適格消費者団体連絡協議会(埼玉)
- 16 日 下野新聞「下野ふるさと大賞」審査会
- 23 日 労福協へ、適格消費者団体について説明

以上

県連活動

1. 機関運営

- 2月9日(火)、第5回定例理事会を開催しました。
- 2月8日(月)、第5回定例くらし部会を開催しました。

始めに4月からの「電力自由化」について、日本生協連総合運営本部 中央地連事務局 柳下剛氏を講師に、学習会を行いました。その他、12月に行われたEcoテック&ライフとちぎ2015と、食と農をつなげる会の振り返り、会員生協と日生協からの活動報告、被災地支援活動報告等を行いました。また、来年度に向けて、開催したい学習会の案や、今期の組合員活動の振り返りを作成し、次回4月4日のくらし部会に持ち寄ることを確認しました。

2. 県連学習会

- 2月15日(木)、2015年度第4回理事・幹部職員定期学習会を開催しました。

特定非営利活動法人 蔵の街たんぼぼの会理事長 石河 不砂 氏に講師をお願いし「地域における障がい者の自立について」をテーマに学習会を行いました。

まず「ノーマライゼーション」という概念について教えていただき、障がい者が特別視されることなく、地域の中でともに、普通に暮らしていくためにはどうしたら良いのか、「ふつうの暮らし」とは何なのか、考えさせられる時間となりました。石河先生のご活動を通しての様々な体験談からは、障がいのある方やご家族の想いに気づかされ、私たち自身の理解や意識改革の必要性を強く感じました。学習会の後半は、参加者でグループに分かれて交流を行い「社会の中の様々な立場の『困っている人』を、互いに支え合える社会こそが、生協として目指すべき社会のかたちなのでは」という報告もありました。

- ・ 心のバリアフリーのお話しがとても印象に残りました。
- ・ 「障がい者」に対して、自分自身の中に無意識の「偏見(偏った見方)」があることに気づかされました。
- ・ 障がいのある方を特別視する社会である事を、学びを通して改めて感じました。そして、私もその1人であるかもしれないと感じました。
- ・ 「障がい=できないこと、苦手なこと」と考えると誰もが障がい者であって、障がい者を特別枠で捉えること自体が間違いだと気付くことができました。
- ・ 障がいがあってもなくても、それぞれ人には個性があり、それぞれが「ふつう」なのだと感じることが大切だと思いました。
- ・ 石河先生のお話しは、具体的な取り組みを分かり易くお話しいただいたので、午後の分散会でも深めることができました。
- ・ たんぼぼの会のように活動されているグループがあれば、障がい者のご家族が孤立せずに社会と関われる。この活動が、社会全体、日本全体で当たり前になると本当によい。

〈参加者アンケートより〉

3. 行政関係との懇談会

〈懇談会・審議会への参加〉

- 2月1日(月)、消費生活安定対策審議会に会長理事が出席しました。
「栃木県消費者基本計画(案)について」を議題に、審議を行いました。
- 2月5日(金)、栃木県農政審議会に、会長理事が出席しました。
- 2月22日(月)、宇都宮市食品安全懇談会に、会長理事が出席しました。

〈その他 行政関連〉

- 2月5日(木)、第4回生活支援・介護予防体制整備研究会(小山市)に理事が参加しました。
小山市では平成28年度4月より新しい介護予防体制に取り組みますが、その中心となる福祉協議会のあり方について話し合いました。参加団体、協議体がカバーする範囲など、行政・研究会の主メンバー等とともに、今後具体化をしていきます。

4. その他

- 2月3日(水)全国漁業連合協同組合、青年女性交流大会審査会に会長理事が出席しました。
- 2月4日(木)協同組合交流会が開催されました。

JA、森林組合、労福協、全労済、農林中金、職域生協、地域生協 等県内の協同組合と、社会福祉法人、NPO から、約60名が参加し、交流を行いました。

基調講演として「宇都宮大学教育学部 住環境・まちづくり研究室 教授 陣内 雄次 氏による、街づくりにおける協同組合の役割について」と、4つの協働組合から活動事例発表が行われました。

「JAくらしの活動の取り組みについて/JA 栃木中央会 くらしの活動推進部 部長 石村和成様」

「とちぎ林業グランプリ2015の開催について/栃木県森林組合連合会 指導課長 潮田 健司様」

「全労済における『労働運動・協同組合運動・労災運動』と『自然災害における防災・減災』を考える体験学習会の開催報告について/全労済 栃木県本部 事業推進課 課長 小西均 様」

「社会福祉法人ふれあいコープの地域福祉貢献活動について/社会福祉法人ふれあいコープ総合企画室長 蔵谷友香様」

- 2月9日(火)、理事会の前に「適格消費者団体」について、弁護士:服部 有氏より説明をいただきました。また、4月16日(土)開催予定の「-消費者問題フォーラム- ～知ろう！適格消費者団体、作ろう！栃木に～(栃木適格消費者団体設立準備会主催)」へ、参加の呼びかけがありました。
- 2月13日(土)14日(日)、「第20回適格消費者団体連絡協議会」が、さいたま市浦和にて開催されました。今回の主催は、適格消費者団体「さいたま消費者被害をなくす会」です。全国に13団体ある適格消費者団体と、適格消費者団体を目指す14団体が集まって情報交換が行われました。1日目は、適格消費者団体からの問題提起が行われ、2日目は、適格消費者団体と、それを目指す団体に分かれて分科会を行いました。適格消費者団体としての認定を目指し、どのように活動を進めて行ったら良いのか、具体的な情報提供と、熱心な意見交換を行いました。最後に、今後も団体が集まり、今後も連絡協議会を定期的に開催することを確認しました。栃木県内でも、弁護士の服部有先生を中心に、適格消費者団体設立準備会を定期的に開催しています。
- 2月16日(火)下野新聞「下野ふるさと大賞」審査会に、会長理事が審査委員長として出席しました。今年度28団体の応募の中から、足利市の足利クリーンハイキングクラブ山和(さんわ)会が大賞となりました。



20年前から「ふるさとの環境美化と会員の健康増進」を目的に、未就学児から高齢者まで約150人でごみ回収のハイキングをしている団体で、地域との連携や後継者の育成も広範囲に行っています。

写真:下野新聞社より

- 2月23日(火)、会長理事、専務理事が労働福祉協議会を訪問し、栃木県での適格消費者団体設立の必要性について説明を行いました。
- 2015年度、第37回ハンド・イン・ハンド募金報告

生協名	金額(円)	参加人数	取り組み方法
フリジストン那須グループ生協	4,881	約200名	募金箱を社内に設置
栃木県職員生協	20,919	—	売店レジ前に募金箱設置
よつ葉生協	39,146	—	11/21 生協祭りで募金
全労済栃木県本部	5,221	10名	全労済共催ショップ宇都宮店店頭及び役員による職場内の取り組み
栃木県生協連	14,152	—	事務所内に募金箱設置

ネットワーク活動

1. とちぎ食の安全ネットワーク

- 「栃木県政世論調査」によると、20代～30代の女性が「食の安全性について不安に思うこと」の1位は「放射性物質」でした。その結果から、子育て世代でもあるこの方たちを対象に、食品安全セミナーを開催することとしました。今回は、宇都宮市の「認定みどり子ども園」のご協力で、保護者を対象に放射性物質と食品の安全性や、家庭での対策が必要な食中毒防止についての学習と、食の安全ネットワークに参加している団体が、どのように食の安全を確保しているのかなどの報告を行いました。

内	容
講話①	「食品の安全性について」 ・食中毒予防について ・食品の表示について ・放射性物質と食品の安全性について 等 講師：栃木県保健福祉部 生活衛生課 食品安全推進班 班長 高橋 正典
講話②	「食品事業者における食品の安全性確保の取組について」 講師：とちぎ食の安全ネットワーク 代表世話人 竹内明子
質疑応答、意見交換	



2. とちぎ消費者ネットワーク

- 「給付型奨学金制度の導入・拡充と教育費負担の軽減を求める署名」に協力し、合わせて約6900筆の署名を提出しました。(取りまとめ団体…労福協)

【署名の趣旨】

大学の学費の高騰と家計収入の減少により、今や大学生の2人に1人が、何らかの「奨学金」を利用しています。さらに、不安定雇用や低賃金労働の拡大により、卒業しても返済に苦しみ、「返したくても返せない」人たちが増加しています。

諸外国では高等教育の無償化や給付型奨学金が主流となっており、貸与に頼り切った日本の制度は特異な存在です。貸与型奨学金制度は卒業後の安定した雇用が前提であり、雇用の不安定化を進めながら、高額な教育費を個人にのみ負わせるシステムは限界に達しています。その矛盾が、若者たちが数百万円という奨学金返済(借金)を背負って社会に出ていくという形で象徴的に現れているのです。今の状況が続けば、貧困の連鎖にとどまらず、中間層までもが結婚・出産・子育てが困難となり、少子化・人口減を更に加速しかねません。未来を担う若者を社会全体で支え、持続可能な社会にするため、私たちは以下の奨学金制度の改善と教育費負担の軽減を求めます。

- 今年度12回開催した「消費者カレッジ」の報告書を作成し、県と開催校に報告を行っています。(自治医科大学、宇都宮大学、作新学院大学、作新学院短期大学、國學院栃木短期大学、宇都宮短期大学、国際医療福祉大学、栃木県農業大学校)

震災支援活動

1. 東日本大震災、福島第一原事故避難者支援

- 第42回いわき市四倉仮設住宅お茶会報告

開催日時:2016年2月11日(木) 午前10時:30~12時:30(集合8:00 解散16:30)

開催場所:いわき市四倉工業団地内 被災者仮設住宅 交流室

参加者:参加者14名 スタッフ10名 合計24名

メニュー:赤飯、大豆ご飯、豚汁、大根と油揚げの煮物、油麩の卵とじ、おから、漬け物、和え物、くだもの、ケーキ等

手芸:フェルトで「お花のブローチ」作り

- 来月で震災から5年となります。仮設住宅の住人も同様に5つ歳を取り、足が痛い腰が痛い、などの会話も増えました。地域に「ぽっくり神社」というのがあるそうで「長患いしないでぽっくりいけるように願掛けをした」という参加者がいらっしやいました。「今年は方角が良くないから移住したくない」という方や、ここでできた人とのつながりが無くなる事が寂しく、仮設から出たくないという声も聞こえます。5年という歳月は「応急仮設住宅」と呼ぶにはあまりにも長く、これから再び暮らしを変えざるを得ない皆さんの、ご負担の大きさを感じました。



被災者のHさんが、1月で米寿をお迎えになり、ささやかながらケーキとお赤飯でお祝いをしました。終戦の年に18歳。空襲もあり、今回の震災もあり、幾度も大変な困難にあいながら、今こうしてお元気で88歳を迎えられたこと、そのお祝いができることが私たちもとても嬉しく、元気をいただきました。後日ご本人より、お礼のはがきをいただきました。

- 2月10日(水)、被災地の情報発信

みやぎ生協さんからの情報「3.11を忘れない～被災地のいま～第30回「地域再生に向けて(5)～コミュニティ、今とこれから～」をアップしました。

先日私のものに米寿のお祝として頂き本当にありがとうございます。私事で心は留めて頂き、本日はお縮みいたしました。人生、色々分岐する事が多いと思いますが、こんな嬉しい事はなかなかありません。3月11日の事件がなければ、栃木の皆さん様にお逢ひ出来なかったと思います。皆様心やまじい方は、お逢ひする事も出来ず、毎月おひげ頂き、色々お話し、食事、本気で頭が下り、仮設の皆さんとお話して感謝しております。お礼まじい。今日は方角が良くないから移住したくない。今年はお元気で88歳を迎えられたこと、そのお祝いができることが私たちもとても嬉しく、元気をいただきました。後日ご本人より、お礼のはがきをいただきました。

2016年3月 活動予定

3 月	1・2	日	全国漁業連合協同組合、青年女性交流大会審査会
	2	日	とちぎ食育推進連絡会
	3	日	消費者フォーラム in にいがた
	4	日	小山市地産地消・食育推進協議会総会
	5・6	日	沖縄県の戦跡と辺野古視察
	7	日	適格消費者団体設立準備会
	10	日	常務理事会
	12	日	JAビル竣工記念式典
	14	日	第5回理事・幹部職員定期学習会
	15	日	消費者ネットワーク幹事会
17	日	食の安全ネットワーク全体会	
18	日	生物多様性を育む農業国際会議実行委員会	